

新会長に佐藤久男さんが選ばれる

AAFCの従来の役員は三月末をもって任期満了となるため、去る三月八日の例会終了後に開かれた総会で、新役員として次の六名の皆さんが選ばれ、四月一日付けでそれぞれ就任しました。

- 会長 佐藤 久男 (新任)
副会長 山本 一成 (再任)
理事(総務担当) 倉田 勲 (新任)
同(会計担当) 大久保 貴枝子 (新任)
同(技術担当) 宇多 弘 (新任)
同(ウェブマスター) 堀端 俊雄 (新任)

新役員の任期は二年間ですが、副会長の山本さん以外はすべて新任の未経験者ながら、全員協力し、これを機会にAAFCのさらなる発展のため、新たな発想のもとで、会の充実と活発化に努める所存です。

一、新会長の挨拶



故井上初代会長、2代目 脇田会長の後を引き継いで三代目をお引き受けすることになり、責任の重さに身の引き締まる思いです。

縁あって発起人総会からAAFCの活動に関わりその発展を傍で見て参りました。歴代の名会長のご指導のお陰でわがAAFCは内容、活動、対外的にも他の団体にはない素晴らしい充実した団体に発展してきました。

更にこれからは従来にも増してその活動を活発にし、会員相互はもとより地域住民の方々にも十分お役に立って行きたいと思えます。更にこれからは従来にも増してその活動を活発にし、会員相互はもとより地域住民の方々にも十分お役に立って行きたいと思えます。

活動の具体的な内容については、新しい役員の皆様との打ち合わせを行っておりませんのでここに記載できないのが残念ですが、今までの脇田会長の路線を継承し更なる発展をするべく新役員と共に全力を尽くしていく積もりです。

AAFCはご承知のようにオーディオ、音楽などを通じて会員相互が定期的例会の他に、親睦旅行、音楽会、発表展示会、会員宅の訪問などを通じて例会以外にも平素の交流が活発です。特に定年を迎え、在宅の多い高齢者にとつては例会以外の活動、交流は極めて大切なことだと思います。他の趣味団体で家庭を訪問することは滅多にありません。AAFCではオーディオ装置を試聴するために訪問し、音楽、オーディオ談義をしながら充実した時間を過ごすと言う極めて贅沢な時を過ごす会員が大勢います。

これが生き甲斐という高齢者も居られ更に充実した人生を楽しみ、豊かな時間が過ごせるようにしたいものです。脇田会長を始め旧役員の方々に心から感謝申し上げますと共に、今後とも会の活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

二、私とオーディオ

生演奏と録音演奏

記憶というものは極めて曖昧なものである。具体的な事象やそれに伴って感じたことはよく覚えていますが、ただ単に何かに心動かされるような、心情的なことはすぐに忘れてしまう。大学在学中だったと思うが、音楽を聴いて、誰かにそのすばらしかったことを、話さざるを得ないほどの感銘を受けたことがある。

それは、ラジオを通して聴いたレフ・オポーリンのピアノ演奏だった。演奏終了後すぐに、電話をかけて、「いまのオポーリンの演奏、聴いた？」と従姉妹に聞いた。彼女は武蔵野音大でピアノを専攻していて、オポーリンが来日し、渡辺暁雄指揮、日フィルと共演することをよく知っていた。勿論、彼女もその演奏をラジオで聴いていた。二人でその卓越した演奏について語り合ったことを覚えていて、その演奏が何の曲だったか、どのようにすばらしかったかはまるで覚えていない。演奏の良さを言葉で表すことは、直前に聴いた音楽でさえ難しい。いまから調べると、オポーリンが来日演奏したのは1965年10月22日である。オポーリンが来日した頃には、オイストラフと共演したベートーヴェンの「クローツェル」と「春」が入ったレコードを持っていた。そのときの演奏が優れていたは勿論だが、昔のラジオとは云えども、実況生放送を聴くのと

編集したレコードで聴くのとはずいぶん違ったのだと思う。

クラシック音楽に親しむ

私が、音楽、とくにクラシックを聴くようになったのは、高校時代からである。大学に入ってから、武蔵野音大でピアノを教えていた叔母や音大生の従姉妹たちの影響で、音楽について話すのは当たり前になっていた。いまでも、その従姉妹たちとは兄弟同様の付き合い合いをさせてもらっている。もと東響のヴィオラ奏者の旦那もいて、集まると、飲みながらの音楽談義になる。

AVアンプを愛用中

現在、私は2セットのオーディオ装置を使っている。メインの装置はリビングにあり、もう一つが書斎にある。メインの装置は1993年頃から、代々、7.1マルチチャンネルシステムになった。マルチチャンネルにしたのは、コンサートホールで聴く感覚でクラシックを聴きたかったからで、たまたま、アンプを買った時に思いついて秋葉原に行ってみつけたものである。ヤマハが出していた、DSP22000という、今で云うAVアンプである。98年にはメインアンプも、スピーカーもほとんどを入れ替え、アンプはヤマハのDSP1A1に、同時にスピーカーもフロントをハーベスHLIP3ESに替えた。

このスピーカーは、フロントスピーカーとしてクラシックを聴くには最適であると思っている。現在アンプはヤマハのDSP1A4X6000を使っていて、オーディオに重点を置いたAVアンプで、静ひつ感がすばらしい。最近ではマルチチャンネルシステムもオーディオファンから見直されつつあるようだが、数年前まではピュアオーディオファンからはAVアンプでオーディオを聴くのは邪道のように云われた。もちろん、家電量販店なんかで、テレビの前に置いてあるサラウンドシステムはやはり5.1チャンネルの映画を見るためのもので、音楽を聴くには不満を感じるかもしれない。

しかし、良い音で、音楽を聴くに耐えられるピュアオーディオ用のスピーカーとAVアンプを組み合わせたものは、大型スピーカーにも負けないシステムになる。マルチチャンネルで音楽を聴くメリットは、コンサートホールで音楽を聴いているのと同じ雰囲気味わえることである。それと床や壁などをあまり気にしなくて済む。もちろん、映画の音声をマルチチャンネルで聴くのも楽しい。テレビで放送される音楽番組や5.1チャンネルで放送される番組をテレビに付いているスピーカーで聴いたのでは、と思ってしまう。昨年の6月にAAFCに入会した。例会では、音量を上げて、真剣に音楽を聴けるし、また、自作のスピーカーやアンプなどの音も聴くことができた。我家では自分の部屋ではいつもCDやレコードを聴いているが、リビングルームにあるメインシステムでCDを聴くのは

女房が留守のときだけで、普段はめったに聴かない。また、自作のスピーカーで綺麗でピュアな音を聴かされると、つい欲しくなる。

サブの再生装置

書斎のオーディオ装置はオーディオ誌の云う入門用だが、普通はBGMとして聴いているので、トーンコントロールも高低音とも強くしていない。それでもAAFCのオークションで買ったスパイク付きスピーカースタンドのお陰でよく響くし、柔らかくて良い音が出ている。「趣味はオーディオではなく、音楽鑑賞である」と、今でも思っている。

写真は鶴様とメインの再生装置



今回は都合により、急遽鶴様に投稿いただきました。有り難うございました。